

# 阪神大水害

昭和9年の「室戸台風」による災害が人びとの記憶から消え去らない3年に、阪神地方は空前の大水害に見舞われました。6月28日から降り出した雨が7月5日には最大の雨量（1日326ミリメートル）となり、山津波が押し寄せ、芦屋川、高座川、宮川などが氾らんして、精道村内は泥海と化しました。

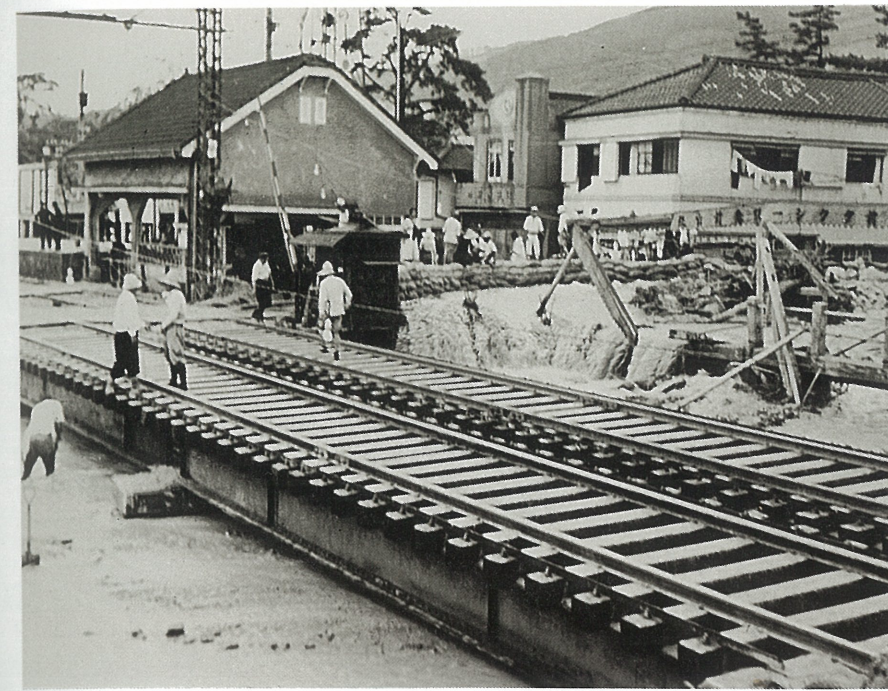
谷崎潤一郎の名作『細雪』には、その惨状が全編中の圧巻となって写実的にえがかれています。

### 〈精道村の被害状況〉

死者3人、重傷者2人、家屋流出14戸  
全壊14戸、半壊111戸、床上浸水790戸  
床下浸水1,458戸、橋梁流出6、破損8  
道路堤防の破損決壊10



阪神大水害で泥水に埋まった国鉄線路 芦屋川をあふれた水は、芦屋駅の構内外にわたり、3万立方メートルもの大量の土砂を沈澱させ、その深さは3メートルにも及ぶ箇所もあり、線路は全く埋没してしまったと、大阪鉄道局の当時の記録に示されている。



阪急芦屋川駅付近の惨状 激流は、阪急芦屋川駅の東方のガード下を南下して、付近一帯に被害を与え、国鉄線路上にまで大量の土砂を運んだ。



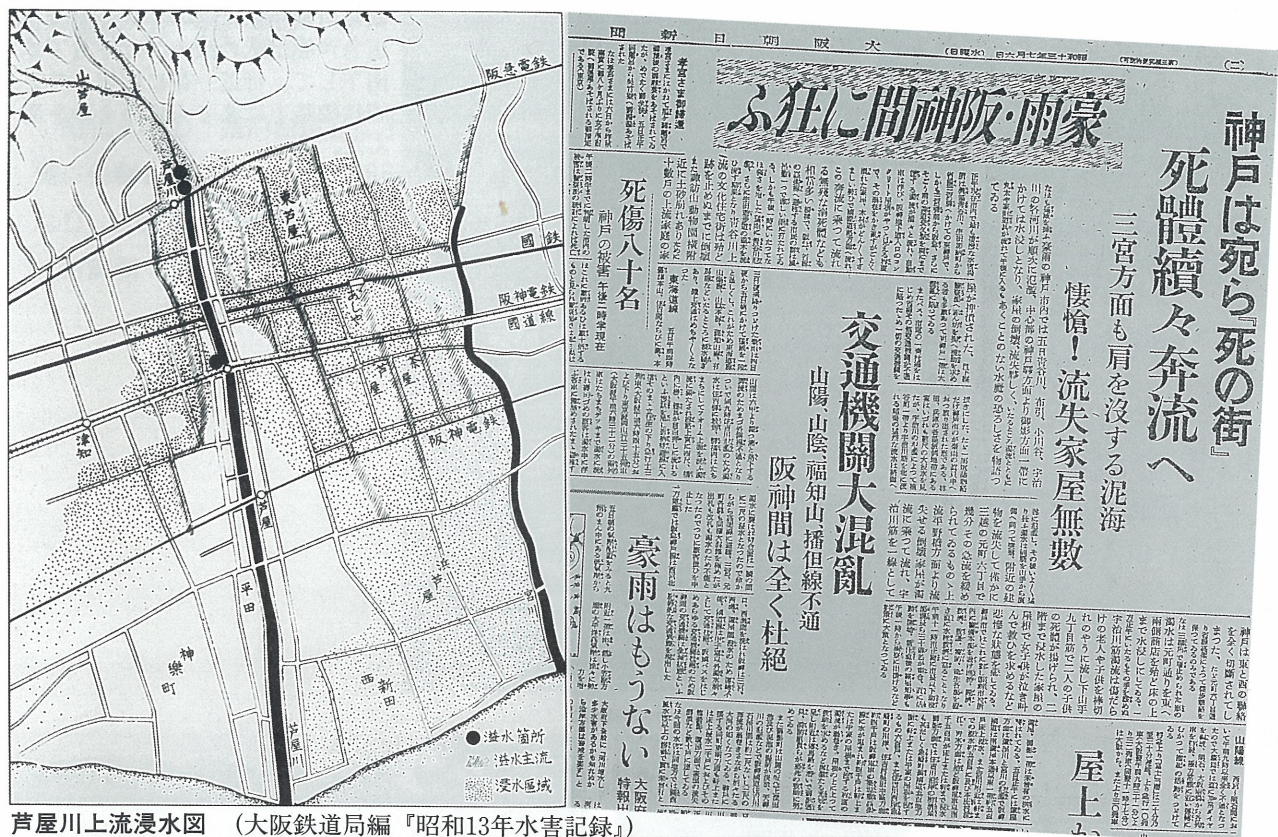
阪急芦屋川駅北側 土砂の流出を土のうを積んで防ぐ人びと。



阪急芦屋川駅北側の惨状



傾むいてしまった蔵 国鉄芦屋駅北側付近



芦屋川上流浸水図 (大阪鉄道局編『昭和13年水害記録』)



業平橋付近のようす

「業平橋の辺は大変でございます。水が恐ろしい勢で、もうすぐ橋につきそうに流れております。」

(谷崎潤一郎『細雪』から)

芦屋川上流のようす 城山橋は、7月5日午前10時すぎに水があふれて、両岸の道路に土砂が堆積して家屋に浸入して見るまに家屋を壊し、何も出す間がなかった。



屋根まで埋まってしまった民家 松ノ内町付近



屋根まで埋まってしまった民家 松ノ内町付近

「開森橋東の土手の決壊により芦屋川の東道路は奔流の中心となり水量丈余に達し道路に接する家屋は無惨にも全壊又は半壊し二階より救いを求める声人がびとの哀れを催したのである」

(『阪神地方水害記念帳』昭和13年7月)



芦屋川東方 松ノ内町付近



阪急芦屋川駅北側付近